

資料 1

河内長野市第 6 次総合計画 基本構想（案）

○導入メッセージ

千年都市と、これからの十年。

Q.
河内長野のまちづくりは、
今、どうなってるの？

→

A.
ターニングポイント

若年層（0～14才）の転入が、7年連続で
転出を上回り、子育て世帯から選ばれるまちに。

#まちづくり
千年都市に訪れた、チャンスのある十年。
再生フェーズへのターニングポイントを迎えていること。

Q.
どうして、若い世帯が
引っ越してきているの？

→

A.
空き家の循環

大阪最少だった空き家率に変化のサイン。
長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。

#まちづくり
2003年、空き家率が府内最少。
それだけ長く定住する人が多い、ということ。
その空き家率に変化が生まれ、
空いた住居に転入するケースも増えていること。

Q.
大阪のなかでも、
河内長野が
いちばん強いのは？

→

A.
地盤

「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。
府内で1番地盤が強い河内長野。

#安心 #1000年
府内で1番地盤が強いこと。

Q.
河内長野は、
安心して住めるまちなの？

→

A.
防犯も、大阪一

犯罪発生率、府内市中、最少。
防災も、防犯も、安心のまち。

#安心
犯罪発生率、府内最少。
防災だけでなく防犯の面でも安心できるまち。

Q.
窓をあけると、
近くに見えるのは？

→

A.
みどり

自然が身近にある暮らし。
緑視率が高く、森林面積も府内市中1位。

#自然

市域の67%が森林。窓から緑が見える「緑視率」も高いこと。
おおさか河内材の生産地でもあること。
河内長野を代表する岩湧山は、登山者や観光客にも親しまれている。

Q.
川を流れてるのは？

→

A.
きれいな水

大阪で唯一、全域水質AAの石見川をはじめ、
ムササビやサンショウウオも暮らす、美しい自然。

#自然

独自の水系、きれいな水。全域水質AAの石見川をはじめ、
一級河川の石川も滝畑ダムをはじめとする治水によって地域を支え、
毎年10月ごろになるとオシドリが飛来する。（河内長野八景のひとつ）

Q.
道のそばで
にぎわっているのは？



A.
道の駅

人気ランキング大阪1位。
道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。

#つながり #自然 #まちづくり
2017年に府内10番目の「道の駅」に登録された
「道の駅 奥河内くろまろの郷」。
自動車で訪れる人だけでなく、サイクリストにも人気で
まだ生まれて月日の経っていない道の駅でありながら、
人気ランキングで府内1位に輝く。
河内長野の旬の食材を活かしたビュッフェや、
河内小麦でつくるパン、市内の特産品など、地域の風土が息づいている。

Q.
地域の自然や暮らしを
守っているのは？

→

A.
まちのみんな

リサイクル率、府内市中2位。
まちのゆたかさにつながる、一人ひとりの営み。

#つながり

河内長野のリサイクル率は府内2位。
市民や事業者たちの日頃の取り組みが、環境や自然を守ることに繋がっている。

リサイクルだけでなく、さまざまな活動において
主体的に活躍している市民・事業者の方々がいる。

Q.
新しく暮らしはじめた人も、
馴染みやすいのはなぜ？

→

A.
心地よい つながり

新しい人にひらかれた河内長野。
伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。

#つながり

新しくまちに入ってきた人を受け入れる包容力。
子育てや福祉、世代を超えたつながり。
伝統産業と新産業。

Q.
河内長野の歴史は？



A.
1000年

中世文化遺産の宝庫。
日本遺産に認定された「中世に出逢えるまち」。

#1000年

その歴史のながさや、地域に残る文化的な資産について。
酒蔵通りの景観（街並み）・高野街道・観心寺・金剛寺・延命寺など。

Q.
河内長野で1000年、
続いてきたものは？



A.
ふだんの暮らし

文化財だけでなく、この地で連綿と続いてきた
「暮らし」そのものが、まちの資産。

#1000年

特別に指定された重要文化財だけでなく、
この地で千年にわたって続いてきた「ふだんの暮らし」。
京都のような華やかな文化の中心ではなく、
河内長野は日々の暮らしの中に価値があり、その価値を見つめ直したり、
さらに磨いたりすることで、魅力を育んでいける。

○後半 導入部

ふだんを生きる、じぶんが生きる。
知るほど暮らすほど「好き。」が深まる千年都市。

後半は、「ありたい姿（仮）」の紐解きをしていけたらと考えます。

10年後、私たちは
どんな「ふだん」を生活しているのだろう。

まちが元気、みんなも元気。

深呼吸したくなるようなゆたかな自然、美しく整備された街並み、充実した教育や子育て環境、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10年後の河内長野は、もっと美しく、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。

ホタルも、子どもたちも、光ってる。

ゆたかな自然とのふれあいが、子どもたちの体験もゆたかにしてくれます。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、川遊び、地元の食材をふんだんに使ったBBQ、子どもたちが顔を輝かせながらホタルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。

揺るがない安全と安心感。

10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と同居して暮らせる毎日が、みんなの誇りになっています。

人のつながりも、大きな安心に。

地域の人たちも、河内長野の安全・安心を支えるのに、大事な役目を担っています。学校に通う子どもたちのための見守り活動や、防災・防犯活動など、一人ひとりの目配り・心配りが、みんなの安心を育んでいます。人と人とのつながりが広がり、深まることで、安心はもっと、大きなものになっています。

暮らしの中に、「できる。」がふえる。

知りたいまちの情報にいつでもアクセスできたり、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり、AIや新しい技術が暮らしの中に自然に溶け込んで、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。

好きなときに、好きなところへ。

自動運転などのテクノロジーや、人と人の助け合いを活かして、マイカーがなくても、免許を返納しても、自分の行きたいところへ出かけることができます。新しい地域モビリティやバス・鉄道、ご近所さんとの乗り合いを組み合わせて、いろんな移動が実現。移動中に生まれる人と人の“ふれあい”も、楽しみのひとつに。

「じぶん」が活きるまちって、
どんなまちだろう。

みんなが、主役。みんなが、ファン。

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりの個性が活かされて、みんなが好きなこと、得意なことを楽しめるまち。そして、なりたい自分に近づけるまち。いろいろな人がいて、誰もがどこかに「主役」になれる場所を持っていて、それぞれが誰かの「ファン」でもあって、お互いに応援し合っています。

支えて、支えられて、活かし合って。

誰かがいつも「支えられる側」になるのではなくて、自分の長所や特技・経験を活かして、誰かを「支える側」にもなれるまち。お互いに気兼ねなく頼みごとができたり、周りの大人たちに支えられて成長した子どもが、自分も誰かを支える側になったり、支え合いの循環が広がっています。

あたらしい一歩、踏み出し放題。

何才になっても、いつでも新しいことにチャレンジできて「このまちでよかった。」と思える場所。新しい一歩を踏み出すとき、「このまちがいい。」と思える場所。周りのみんなも、その一歩を応援してくれるから、やりたいことを次々と実現させることができます。

地域がまるごと、学校。

学校でたくさんのことを学べて、学校の外でも学べるのがいっぱいあるまち。10年後の河内長野では、みんなが先生に。自然も先生、スポーツ選手やアーティスト、地域の大人たちも先生。子どもたち自身も、自分で好奇心や探究心を持って調べたことを誰かに伝えれば、立派な先生に。

学びを、誰かの喜びに。

いくつになっても、学び続けられるまち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、身につけた知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。ゆたかな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。

住（じゅう）を、もっと自由に。

戸建てや団地、マンションでの暮らしも、古民家の活用も、いろいろな住み方、暮らし方を自由に選択できるまち。たとえば、平日はニュータウンで生活し、週末は集落の田畑に出かけたり、空き家をリノベーションして仕事の拠点にしたり、多様な地域の魅力を活かして暮らしの楽しみ方が広がっています。

これから、どんな「好き。」を
深めていけるだろう。

まちの顔を、笑顔でいっぱい。

“まちの顔”になる場所がいくつもあって、たくさんの笑顔があふれる場所に。みんなの手で景観を美しくしたり、おいしいお店や楽しいスポットができたり、商店街の新しい活用法にみんなでチャレンジしたり。地元の人も、観光客の人たちも、いろんな所でいろんな「好き。」との出会いが生まれています。

サクセスフルな、サステナブル。

自然を守るための活動がもっと盛んになり、資源のリサイクル率は府内トップレベルから全国トップレベルに。ゆたかな森林と市民活動をもとに、脱炭素社会の実現をリードするまちとして注目が集まっています。美しい自然や公園、まちの景観を、思い入れをもってみんなで守り、活用することで、一人ひとりのまちへの愛着がさらに深まっています。

“ここにしかない”時間を求めて。

都心から30分の場所でありながら、自然や文化・歴史を感じられるまち、河内長野。自然と親しむアウトドア体験、ながく大切に守り継がれてきた神社仏閣。ここにしかない時間がゆっくりと流れていて、国内外から多くの人を惹きつける魅力になっています。慌ただしい日々の中で失った時間を取り戻し、ゆたかな時間を蓄えていく。そんな時間の楽しみ方が、ここにはあります。

地産地消で、日本一の給食カレーを。

恵まれた自然と新しい農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消の取り組みが進み、河内長野産のおいしい食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜をつかって日本一おいしい給食カレーをつくったり、おいしくて体にもやさしい食文化がまちじゅうに広がっています。

“推し”と出会えて、育てるうれしさ。

地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、ダンスチームや吹奏楽団、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。

「好き。」が集まれば、すごい力に。

河内長野がみんなの「好き。」であふれたまちになって、みんなで見つけて持ち寄ったいくつもの魅力が「まちのブランド」になり、広く全国へと伝わっていく。みんなで愛着と誇りを持って、このまちでの暮らしを楽しむことが、そのまま、まちづくりにも活かされていく。そんな未来が、始まろうとしています。

○結びのメッセージ

（仮）

一人ひとりの「好き。」が、
つぎの十年、つぎの千年をつくっていく。